

科目別特徴（演習編）

(9) ころとからだのしくみと生活支援技術	【ア 基本知識の学習】	
	① 介護の基本的な考え方	# 介護を巡る基本的な理論と法の成り立ちの変遷を明示し、理論と法的根拠ある介護という考え方を理解させる。必要に応じて、受講者に発言を求めながら、理解の進捗を把握して進める。
	② 介護に関するころのしくみの基礎的理解	# 教科書にある事例を活用して、「高齢期における喪失体験」についてグループ討議し、受講者の参加度、どう討議で関わっているか、自分の言葉でどれだけ語れているかを見る。発言のない受講生には発言を促す。
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	# ボディメカニクスの基礎的理解をまず教科書に付属するDVDで映像を活用して進める。その後、グループごとに実演させ自分の体で実感する。その過程でメカニズムへの理解が進んでいるかを講師が観察し、必要な受講生には助言する。
	【イ 生活支援技術の講義・演習】	
	④ 生活と家事	# 個人の生活を支える衣食住全般でその個人が自立した生活を継続するために必要な援助をすることが介護における生活支援、家事援助であることを理解する。介護士は「お手伝いさん」ではなく自立支援のためのものであることを理解する。様々な事例を挙げて、受講者との応答の中で理解度を確認する。
	⑤ 快適な居住環境整備と介護	* 住宅改修の事例紹介 * 福祉用具貸与（カタログ） # 福祉用具の事業者から直接説明してもらう。事例として、高齢者の部屋のレイアウトをより快適で生活しやすいものにするために改善点を検討する。グループ討議とし、その結果発表を踏まえつつ、各人の理解度を観察し、必要な助言を行う。
⑥ 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	【事務局用意物品】 ベッド（手すり、寝具一式） # 教科書の章の冒頭にあるコラムのエピソードを活用しながら、まず整容の持つ意味を理解する。そのうえで、各項目で基本的な情報を提供し、衣服の脱着をグループで座位、臥位とも演習する。各人の理解度を観察し、必要な助言を行う。	
⑦ 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	【事務局用意物品】 ベッド（手すり、寝具一式）、車いす、杖 # 教科書の章の冒頭にあるコラムのエピソードを活用しながら、まず移動・移乗の持つ意味を理解する。そのうえで教科書に付属するDVDで各動作の全体像を理解し、その後演習に入る。移乗は教室内でベッド、車いすを活用して実施し、	

科目別特徴（演習編）

	移動は屋外に場面を移して実施する。 講師は各人の理解度を観察し、必要な助言を行う。
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>【事務局用意物品】 食事に関連する各種の福祉用具（スプーンフォルダー、バネ付きの固定箸、ホルダー付きコップなど） #弁当で実際に食事介助する。トロミ剤を実食してみる。各種の福祉用具を実際に試してみる。口腔ケアをしてみるなど。その過程で講師が理解度を観察し、必要な助言を行う。</p>
⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>【事務局用意物品】 協力の得られる高齢者施設で演習を実施する。 #浴槽、浴室で使用する福祉用具（バスボード、浴槽台、滑り止めマット、入浴用の椅子など）を実際に使用し、体験する。 その過程で理解度を講師が観察し、必要な助言を行う。 グループごとに気づいたことを報告し、理解度の進展を見る。</p>
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>【事務局用意物品】 ベッド（手すり、寝具一式）、ペットボトル（陰部洗浄用）、洗い桶、バケツ、手ぬぐいタオル（2本、色分け）、ポータブルトイレ、車いす、紙おしめ（パンツタイプ、テープタイプ）・パッド、尿器、便器 #排泄の意味や体のなかでのその仕組みをまず理解し、その後実務演習をグループに分かれて実施する。 その過程で理解度を講師が観察し、必要な助言を行う。グループごとに気づいたことを報告させ、理解度の進展を見る。</p>
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>【事務局用意物品】 ベッド（手すり、寝具一式） #教科書の章の冒頭にあるコラムを活用し、まず睡眠の意味について理解させるために、受講者にその受け止めを発表し、共通の理解を引き上げていく。そのうえで体の仕組みのなかで睡眠のメカニズムを説明して、良い眠りのための介護について演習する。 介護用のベッドの様々な機能の理解を進める。 その過程で理解度を講師が観察し、必要な助言を行う。グループごとに気づいたことを報告させ、理解の進展を見る。</p>
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	<p>#老いていくこと、終末を迎えることを高齢者がどう理解し、受け止めていくのか、その過程の理解とともにその時期に求められる生活を支える介護としての介入事例を理解する。他の職種との連携の取り方も理解する。 事例を提示し、グループ討議のなかで受講生の理解を促し、</p>

科目別特徴（演習編）

		必要に応じて、講師が助言する。
【ウ 生活支援技術演習】		
	⑬介護過程の基礎的理解	<p>【事務局用意物品】 ベッド（手すり、寝具一式）、車いす</p> <p>#研修の総仕上げの一環として、介護過程は作成されたケアプランをどのような手段・方法を用いて利用者に対して達成することが出来るか、具体的な介護の知識や技術を提供することであることを理解し、実例を踏まえた演習をグループで行う。</p> <p>グループ討議のなかで受講生の理解を促し、結果発表を通じてさらに理解を進める。</p> <p>必要に応じて、講師が助言する。</p>
	⑭総合生活支援技術演習	<p>【事務局用意物品】 ベッド（手すり、寝具一式）、車いす</p> <p>#研修の総仕上げの一環として、教科書に用意されている二つの事例をグループ単位で演習する。その過程で個別援助計画を作り、実演する。</p> <p>必要に応じて、講師が助言し、理解をさらに進める。</p>
(10) 振り返り	①振り返り	#研修を通じて学んだことを各自に振り返りさせながら、介護が自立支援のためのものであること、根拠のある介護が求められることなどを理解させる。身体・心理・社会面を総合的に理解するための様々な知識が重要であることを理解する。
	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	#介護職のキャリアパスの全体像を理解し、あわせて各種の事業所のありかたも理解したうえで各自の就業への備えを形成する。また、継続的な研修の必要性も理解する。